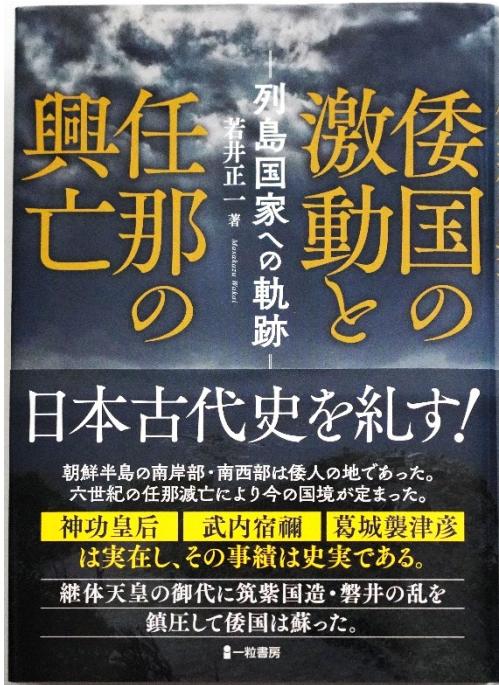


書名：『倭国の激動と任那の興亡 列島国家への軌跡』

価格：1200円+税

出版社：一粒書房

著者：若井正一



六世紀に任那を失い、それを以て対馬が我が国との国境と定まった。本書は、そこに至るまでの激動と興亡を描くものである。

- ◎朝鮮半島の南岸部・南西部は倭人の地であった。
- ◎弥生時代の倭人は文書を用いて中国と交流していた。
- ◎倭人は朝鮮半島南部で鉄を製造していた。
- ◎「加耶」ではなくて「加羅」が本来の名称である。
- ◎神功皇后は三六三年頃に新羅に攻め入り、三六七年に百濟との国交を開いた。
- ◎「任那日本府」は三六九年に「安羅」に設置された。
- ◎武内宿禰は応神朝成立の立役者であった。
- ◎四〇〇年の高句麗・新羅との戦いを指揮したのは葛城襲津彦である。
- ◎好太王碑の「任那加羅」とは慶尚北道の高靈のことである。
- ◎六世紀に任那が滅亡し、我が国は完全な島国となった。
- ◎磐井の乱を鎮圧して大和政権は求心力を取り戻し、倭国は再び一体化した。